

地域の背景・課題

戦略の基本目標：しごとをつくり、夢を持って働けるまち、ひとを呼び込み、魅力溢れる活力あるまち

- 地域の宝であるあさり・海苔は、これまで当町の発展を支えてきたが、近年、干潟の環境悪化等により漁獲量が減少し、漁業者の減少に伴い、使用されていない海苔生産場所が多く点在。また、海苔養殖業においては、多額の設備投資や不安定な仕事としてのイメージなどにより、後継者不足など大きな課題に直面している。
- 全国有数の金魚の生産地であるが、生産者の減少、後継者不足等により、伝統産業である金魚産業の継続が危惧されている。
- ⇒産学官連携により、あさり等の漁獲高向上及び有明海の干潟保全を図るとともに、海苔養殖業への企業参入により、効率的な生産体制を構築し、漁業者の漁獲高・所得向上と新たな雇用の創出や次世代を担う人材育成をはじめ栽培漁業の確立を目指す。
新たな切り口での「金魚を活かしたまちづくり」を展開し、まちの魅力を活かしたしごとを創出する。

取組の概要

しごと創生：ITを活用した中堅・中小企業の生産性向上や新事業促進

まちづくり：まちの賑わいの創出

長洲町地方創生推進委員会

町・熊本北部漁業協同組合・福岡大学・(株)ARC(金属加工業)・日立造船(株)(造船業)をはじめ、地元金融機関を中心に構成。

金魚のまち推進協議会

町・商工会・養魚組合・崇城大学・地元金融機関等のほか、地元の若者などによる組織「金魚のまちあそび」と連携して構成。

地域資源を活用した漁業の振興、素材を活かした販路開拓、人材育成

- 有明海干潟の環境改善を目指し、産学官連携事業として「フルボ酸鉄シリカ資材」を活用し、ヘドロやあさり等の2枚貝の育成状況の調査を実施。
- 地元企業(ARC)が参入し、海苔乾燥施設を整備。使用していない海苔の生産場所を活用し、分業化による生産性向上等を目指す。
- 日立造船の研究技術により、廃棄海苔を利用した新商品の開発や6次産業化へ向けての調査研究事業を実施し、廃棄海苔の新たな活用を目指す。

若者の視点を活かした魅力向上

- 「金魚の館」にサテライトキャンパスを整備。崇城大学をはじめ、大学や企業等と連携して金魚の活用やブランド化を推進。

「金魚と鯉の郷広場」を核とした観光振興

- 金魚と鯉の郷を整備し、金魚グッズを販売するギャラリー等を整備するとともに、東京の「金魚坂」と連携し、全国に長洲金魚のPRを図る。

「金魚のえき」めぐりの構築

- 「金魚の館」を拠点として、周辺の商店等を「金魚のえき」に見立て、ウェブサイトを開発し、多くの観光客の周遊性を高める。

